



UpToDateニュース

発行：2025年5月13日



「UpToDate®ニュース」では、学会・イベント・セミナー等を通じて過去に接点を持たせていただいた皆様、およびUpToDateを施設契約でご利用のお客様を対象に、役立つ情報を日本語でお届けしています。

リレーコラム「UpToDateとわたし」は、日々の臨床や医学教育にEBMを実践されている医療従事者の皆様に原稿を執筆いただいています。ぜひ最後までお読みください！

UpToDateを施設契約でご利用のお客様、アカウント再認証はお済みですか？

UpToDateログインIDをご確認ください。アカウント認証は90日で失効しますが、施設内でアカウントにログインすれば復活します。

目次

- EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」
 - The Queen's Medical Center 神野 定男 先生 執筆
- 臨床情報
 - 卵アレルギーは、もはやあらゆるワクチン接種において懸念事項ではない(*1)

- RSVワクチン接種とギラン・バレー症候群^(*1)
- 早期の糖質摂取と長期的な健康転帰^(*2)
- UpToDate活用のヒント
 - 皮膚科分野の閲覧数上位トピックランキング
 - JAMEP「ホスピタリスト医学プログラム」にて、UpToDateのコンテンツが採用されました
- イベント情報
 - 特別ウェビナー：イノベーションとテクノロジーで挑む、医師不足と燃え尽き症候群【見逃し配信あり】
 - UpToDate Advancedオンラインセミナー開催のお知らせ
- 読者アンケート

本ニュースレターにはUpToDateの臨床トピックへのリンクが含まれています。ご契約状況により全文を読めない場合がありますのでご了承ください。掲載内容は編集時点の情報です。最新情報はUpToDateにログインしてご確認ください。専門領域別の「What's New」や「Practice Changing UpDates」は[こちら](#)をご覧ください。

^(*1)2025年2月26日発行 Current UpDate (Volume 11、Issue 5) 掲載記事抄訳

^(*2)2025年2月12日発行 Current UpDate (Volume 11、Issue 4) 掲載記事抄訳

EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」

米国と日本の診断・治療法を比較し、患者に最適な選択を提示

ハワイ大学

The Queen's Medical Center

神野 定男

私は米国で研修医として学び、現在は米国ハワイでリウマチ専門医として臨床に携わっています。過去には日本でも5年間、リウマチ専門医として勤務する機会がありました。両国の医療現場で専門医として働く中で気づいたことの一つは、日米において検査や治療の方法が異なる場合があるということです。

例えば、関節リウマチの治療において、米国ではメトトレキサートを15mgから開始し、最大20mgまで増量するのが一般的です。一方、日本では15mgから開始することはほとんどなく、最大用量も16mgまでとされています。さらに、アメリカには存在しないものの、日本には有効なリウマチ治療薬があり、これを適切に活用することで、必ずしも欧米の標準治療に従う必要はありません。このように、エビデンスに基づいた標準治療であっても、国が異なればその内容は変わります。そもそも、日本人とアメリカ人では体格や生物学的特性が異なるため、米国の標準的な治療法が日本人にそのまま適用できるとは限り

ません。しかしながら、日本の診療においても、欧米の診断・治療法を理解することで、より幅広い視点を持ち、治療の選択肢を広げることができると思います。

私が研修医2年目のとき、タイ、バンコクの大学病院のHIVクリニックを見学する機会がありました。カンファレンスでは、「米国ではこのような治療法があるが、我々はこの患者には異なる治療を選択する」といった議論が交わされていました。他国の治療法を理解しつつ、目の前の患者にとって最適な治療を選択する姿勢が印象的でした。この経験を通じて、将来日本で医療を行うことになったとしても、他国の診断・治療法を経験することで、患者により多くの選択肢を提供できるのではないかと考えるようになりました。

現在も、日本の専門医の先生方に「この場合、日本ではどのように治療されますか？」と質問をすることがあります。そうすることで、患者の病態を再確認できるだけでなく、米国での標準的な治療に反応しない難しい症例に対して、より多くの治療選択肢を提示できる可能性が広がります。

UpToDateを活用すれば、欧米の標準的な診断・治療法についても短時間で効率よく情報を収集できます。忙しい臨床業務の中で、非常に有効な情報源の一つだと思います。特に若手の先生方には、日米の診断・治療法を比較しながら、患者ごとに適した選択を慎重に検討してほしいと考えています。その際、UpToDateは有用なツールとなるでしょう。また、欧米の学会に日本のデータを用いて発表するときも、欧米の標準的な治療法をUpToDateなどを通じて理解していれば、日本の治療法を欧米人に紹介する際により深い議論ができると思います。

今回のコラムは米国オレゴン州で循環器内科、不整脈専門医として活躍しておられる河田宏先生にお願いします。河田先生は私の大学の同級生です。

スタッフとの写真、著者右上



臨床情報

卵アレルギーは、もはやあらゆるワクチン接種において懸念事項ではない

一部のワクチンには微量の卵タンパク質が含まれていますが（表1）、卵アレルギー患者に反応を引き起こすほど卵タンパク質を含む製品はありません。ここ数年、インフルエンザワクチンの接種前に対象者へ卵アレルギーについては

質問しないことが推奨されています。さらに最近では、黄熱病ワクチン接種においても卵アレルギーについては懸念する必要がないことを示すデータが蓄積されています。これまでに実施された最大規模の研究で、171人の卵アレルギーを持つ子供（そのうち24%はアナフィラキシーの既往歴あり）を対象に、黄熱病ワクチンを用いて皮膚テストを実施し、その後、皮膚テストの結果に関わらず黄熱病ワクチンを接種しましたが、アレルギー反応は認めませんでした。そのため、現在ではあらゆるワクチンの接種前に卵アレルギーの有無を尋ねることはありません。ワクチン提供者は、あらゆるワクチン接種後に起こりうるまれなアレルギー反応への対応を常に準備しておくべきですが、卵アレルギーを持つ被接種者に対して特別な予防措置は必要ありません。

詳しくはトピック記事「[Allergic reactions to vaccines](#)」（[予防接種に対するアレルギー反応](#)）内のセクション「[Hen's egg](#)」（[鶏卵](#)）をご覧ください。

勧告：鶏卵アレルギーは、もはや黄熱病ワクチンまたはその他のワクチン、例えばインフルエンザワクチン、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹の三種混合ワクチン（MMRワクチン）、狂犬病ワクチンなどの接種を控える理由とはなりません。

RSVワクチン接種とギラン・バレー症候群

2025年1月、米国食品医薬品局は、アジュバント添加ワクチンと2価ワクチンのいずれかの糖タンパク質サブユニットRSVワクチンの接種を受けた人におけるギラン・バレー症候群（GBS）に関する警告を発しました。65歳以上の人の観察データ解析から、GBSの推定超過症例数は、アジュバント添加ワクチン（Arexvy）では接種100万回あたり7例、2価ワクチン（Abrysvo）では接種100万回あたり9例となりました。一方、65歳以上の成人では、RSV感染により毎年6万～16万人が入院し、6000～1万人が死亡しています。この情報はRSVワクチン接種を検討している患者にとって重要であり、接種は重症RSV疾患についての個別のリスク評価を元に決定する必要があります（[表1](#)）。

詳しくはトピック記事「[Respiratory syncytial virus infection in adults](#)」（[成人におけるRSウイルス感染症](#)）内のセクション「[Risk of Guillain Barre](#)」（[ギラン・バレー症候群のリスク](#)）をご覧ください。

早期の糖質摂取と長期的な健康転帰

第二次世界大戦後の英国における砂糖配給の影響を分析した新しい研究において、子宮内での曝露から2歳までの期間における糖質の消費量を現在の食事ガイドラインの範囲内に抑えることで、成人期の2型糖尿病、高血圧、肥満のリスクが20～35%減少することが明らかになりました。リスク低減の約3分の2は、生後6カ月から2歳までの糖質摂取制限に起因するものでした。これらの知

見は、「代謝プログラミング」のエビデンスを更に確かなものとするとともに、人生の最初の2年間の糖質曝露を制限することが、長期的健康に重要な利益をもたらすことを証明しています。

詳しくはトピック記事 [「Definition, epidemiology, and etiology of obesity in children and adolescents」](#)（小児や青年の肥満の定義、疫学、病因）内の [セクション「Infancy and early childhood」](#)（乳児期および幼児期）をご覧ください。

UpToDate活用のヒント

皮膚科分野の閲覧数上位トピック ランキング

UpToDateでは、現在25領域、12,800以上のトピックを掲載しています。今回は2024年4月以降の1年間で日本からのアクセスが最も多かった皮膚科分野のトピック上位5タイトルをご紹介します。

順位	タイトル
1	薬物による過敏症および好酸球増多症（DRESS）
2	結節性紅斑
3	スティーブンス・ジョンソン症候群および中毒性表皮壊死融解症：病因、臨床症状、および診断
4	発疹性（斑状丘疹性薬疹）薬疹
5	口腔病変

出典：2024年4月から2025年3月までの日本の利用者のアクセス状況より。

JAMEP「ホスピタリスト医学プログラム」にて、UpToDateのコンテンツが採用されました

日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）は、日本の医療教育の質をチェックする第三者機関として、医療の質の向上を実現するための研修教育の支援を通じて、日本の医療の増進に寄与することを目的に設立された、特定非営利活動法人（NPO）です。この度発表された「ホスピタリスト医学プログラム」では、毎週5問、UpToDateに準拠した選択式の問題をLINEでお届けし、スキマ時間を利用して効率よく病棟診療を学んでいただけます。日本の臨床現場に合わせた内容で、回答後すぐに正答と解説をご覧いただける実践的なプログラムです。LINE公式アカウントにお友達登録をすると無料でご利用いただけます。詳細は[JAMEPホームページ](#)をご参照ください。

イベント情報

特別ウェビナー：イノベーションとテクノロジーで挑む、医師不足と燃え尽き症候群【見逃し配信あり】

医療現場は現在、深刻な医師不足と急速な高齢化という2つの大きな課題に直面しています。多くの国では、人口1,000人あたりの医師数が1人未満とされ、医療提供体制のひっ迫や医療従事者の燃え尽きが常態化しつつあります。

こうした課題に対し、アジア太平洋地域の医療リーダーが一堂に会し、イノベーションとテクノロジーの力で持続可能な医療を実現するためのオンラインセミナーを開催いたします。

本セッションでは、医療DXを支えるデジタルインフラの整備、業務効率化と医療安全の両立、そして医療従事者を支える革新的なアプローチについて、各国の実践事例が紹介されます。

医療現場の業務効率化、医療従事者の支援、患者アウトカムの向上にご関心のある皆様にとって、有益な情報をご提供いたします。どうぞご参加ください。

【開催日時】 2025年5月14日（火） 15:00～16:30

【開催形式】 オンライン

【スピーカー】

- ・ ブライアン・リン氏（マレーシア・Subang Jaya Medical Centre, CEO）
- ・ エディ・グナワン医師（インドネシア・MRCCC Siloam Hospitals, Semanggi CEO）
- ・ 徳田安春医師（日本・群星沖縄臨床研修センター長）
- ・ ジェニファー・ベンジャミン医師（インド・Wolters Kluwer, Regional Customer Success Specialist for South Asia）

【ご登録はこちら】 [こちら](#)よりお申し込みください

※本セミナーは英語で行います。ご登録いただいた方には後日録画をお送りします。

15分でご案内！ UpToDate Advanced活用オンラインセミナー

UpToDate® Advancedをご契約いただいた施設様向けに、新機能の活用方法についてご案内いたします。今回は通常のUpToDateの機能や操作方法には触れず、UpToDate Advancedに包含される機能をピンポイントでご説明いたします。ご契約施設にお勤めでない方もご参加いただけます。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください！

【対象】

UpToDate Advancedご契約施設の医師・薬剤師・コメディカルスタッフの皆

様。ご関心のある全ての皆様。

【内容】

- UpToDate Advancedの機能について
- 操作方法の実演

※UpToDate Anywhereの操作案内はございません

【参加費】

無料：事前登録制

【お申込み方法】 下記リンクより【登録フォーム】にアクセスし、事前の参加登録をお願いいたします。登録完了後、オンラインセミナーへの参加に必要なリンクをEメールでご案内いたします。

- 5月20日（火） 4:30pm ~4:45pm [お申し込み・詳細](#)

※Microsoft Teams（マイクロソフトチームズ）を用いたオンラインセミナーです。

※モバイル端末からご参加の場合は、事前にMicrosoft Teamsのアプリをインストールいただく必要がございますので、ご注意ください。

※PCからは、ブラウザでそのままセミナーにご参加いただけます。

※セッション開始30分前までに登録を完了いただくようお願いいたします

読者アンケートにご協力お願いします

UpToDateニュースをお読みいただきありがとうございます。今後お読みになりたいコンテンツのご希望について、アンケートにご協力お願いします。回答をお寄せいただいた方の中から、先着10名の方にウォルターズ・クルワー特製記念品をお贈りさせていただきます。なお、当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

[こちら](#)よりアンケート回答フォームにお進みください。

このお知らせはお役に立ちましたか？  

[Privacy Policy](#) | [Manage Email Preferences](#)

Wolters Kluwer
230 Third Avenue Waltham MA 02451

Follow Wolters Kluwer



You received this message because you are a user of an UpToDate® or Medi-Span® solution.

[UpToDate®](#) | [UpToDate® Lexidrug](#) | [UpToDate® Patient and Member Engagement](#) |
[UpToDate® Digital Architect](#) | [Medi-Span®](#)

© 2025 Wolters Kluwer and its affiliates and/or licensors. All rights reserved.



Wolters Kluwer